

平成 23 年度 府立山本高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

1. 社会的規範を身につけ、高い目的意識を持ち、希望進路実現に向け、意欲的に勉学に取り組む生徒を育成する。
2. 授業や部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深め、感性豊かな生徒を育成する。
3. 安全で安心な教育環境のもと、社会人として自立し、社会に貢献する多様な人材を育成する。

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 21 年 10 月 実施分]	学校協議会における提言内容
【学習指導】 教員で「授業を工夫している」という項目で肯定的評価が 9 割であったのに対して「授業が充実している」と感じた生徒は肯定的評価 50.3%であった。この結果は従来からの講義形式が多いからだと思われる。 「家庭での学習時間は」という記述項目で 30 分以内が 5 割を占めた。この結果は大きな課題としてあげられる。 教員向け項目で、「学習意欲の高い生徒への講習実施」が肯定的評価 9 割に対し、「到達度の低い生徒への取組み」は 6 割であった。この結果と自由記述から遅進者に対する手当がやや薄いと感じていることが読み取れた。 今後少人数展開授業も必要であると考えられる。 【生徒指導】 生徒向け診断項目で「先生の指導に納得できる」とした者は 58%にとどまった。ダメなものはダメという指導と、説明と納得の両方の指導が必要であろう。 「先生は悩みや相談に親身にのってくれる」に肯定的回答 46.3%「問題を見過ごさず対応している」も 41.3%と低い。教員向け項目の「生徒の願いによく答えている」「教育相談体制が整備されている」が肯定的評価 7 割で十分対応していると思っているが、生徒は十分に寄り添っててもらえていないと感じている。今後改善したい。 【課外活動】 生徒向け診断項目の「学校は楽しい」は肯定的評価 77.9%であったが、「部活動が活発か」は 64.4%と低い。自主性や、責任感、仲間づくり等の面から、部活動加入者を増やしていく必要がある。	『今、山本高校に必要な教育は』 第 1 回 (6/28) ○家庭学習の定着と生活習慣の向上 校長、委員の大半が替わったため、本校の概要説明と授業見学を実施 ・ 授業環境を整えることが先決ではないか。机の列の整頓や机上の整理を図られたい。 ・ いずれ社会に出、保護者になる若者たちである。規律正しい生活は挨拶が基本になる。日々校内あらゆる場面で元氣な挨拶の励行に努め、規範意識の高い生徒育成をしてもらいたい。 第 2 回 (12/6) ○生活習慣、確かな学力、進路実現について ・ 先生も多忙だと思うが授業を頑張ってもらいたい。 ・ 何事も基礎基本が大切であるので、生活習慣に関して凡事の徹底を推し進めていただきたい。 ・ 進路に関して目標目的を持つと積極的になっていく。卒業生による講和など、先輩の成功例や失敗例の体験談を聞くことは大きなきっかけになると思われるので、ぜひ取り組んでももらいたい。 ・ ボランティアの経験は大きいと思われる。今後も地域において継続してほしいし、募集連絡をするので学校で紹介してほしい。 第 3 回 (2/21) ○平成 23 年度評価について ・ 教員の尽力により進学実績が伸びたことは喜ばしい。今後も授業の充実などの取組みを継続してほしい。 ・ 英検受検者、合格者が増えることを望む。 ・ 外部資源活用は次年度も続けていただきたい。 ・ I C T 活用授業の前に必要な機材 (テレビ、プロジェクター) を各教室に入れるなど設備を整えてほしい。 ・ 自転車のマナー向上は、学校だけではない問題である。学校の取組みを紹介し『地域もいっしょにやりませんか』という声かけをしてもよいのではないか。 ・ 小学校や地域と非難訓練等の協力体制をとる必要がある。例えば、小学生が高校のグラウンドに避難する訓練など計画、実施してほしい。 ・ 地域連携を今後も積極的に進めていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組 み①	確かな学力 への取組み	【わかる授業、充実した授業】 - 平成24年度から月曜日だけでなく火曜日も7時間授業にして週32時間にする。 - 各準備室前の質問コーナーが考査前だけでなく普段の放課後活用も多くなり、毎日20人程が利用している。 3年生の進学、就職講習は年間を通して全教科（実技含）で取り組んだ。約半数の生徒が受講した。PTA 主催の土曜の教育産業活用講習は国英で約120人受講した。同日に数学や英語長文講習も設けた。講習受講生徒は進学就職において成果をあげることができた。夏季休業中ものべ100講座を開講した。1・2年生は長期休業中に国数英に約2割が参加、定期考査前には補習を行った。 - 各教科では、宿題、予習復習チェックを丁寧に実施し家庭学習時間の確保に努めた。 - 図書活動は、学力向上につながるものとして校内全体で取り組み、特に国語科の1・2年生の読書マラソンは成果をあげている。全体の貸し出し総数は10272冊で昨年より2200冊増、生徒一人あたりの平均も11冊と初めて2ケタになった。EFHS事業の一環としてGrade Readingsを読みその後レポートを提出させた。Grade Readingsの貸し出し総数は4106冊になり昨年は500冊上回った。 - 英語のAETの授業ではプロジェクターを使って異文化の紹介など内容に工夫をした結果生徒に好評であった。八尾市の交換留学制度を利用して、2名がアメリカへ短期留学をした。 英検受検者大幅増をめざしたが、英検合格者は準1級0（受検者1名）2級は1名（3名）準2級は15名（42名）3級23名（31名）だった。 - 学力生活実態調査や授業評価で数学の実力がまだまだだとわかったので、次年度からは1年生を習熟度別で実施する。 - 家庭科で夏季休業中の課題を、携帯メール・PCで提出させた。国語で自作ミニ小説をパソコンで作成させ冊子にした。 - 学校協議会（第1回）の提言を受け、教室の整理整頓を授業前に指示した。	- 授業評価における「授業満足度」では80.9%で、指標としている60%を超えた。継続して「授業の充実」に首席を中心に取り組んでいきたい。 - 近畿大学を初め同志社、関西大学など現役合格者が大幅に伸びた。難関看護医療系や企業就職の合格率も100%であった。ただ一般入試でチャレンジを試みることなく、指定校に流れる生徒もいた。挑む受験を初め個に合わせた進路指導に努めたい。 - 図書館の貸し出し総数が目標、10000冊を超えることができた。 - 英検準2級受検者の合格率は35.7%と目標の全員合格にはいたらなかった。次年度は1年生全員が3級を取得するよう努めたい。
取組 み②	生徒理解の 促進と相談 体制の充実	【安全で安心な学校づくり】 - 遅刻数は、生活指導部の丁寧な指導により、昨年より1割減になった。自転車通学による事故は大きなものはなかったが、擦り傷打撲はあり、ほとんどが時間ぎりぎりに登校する生徒であった。 - 八尾警察より自転車乗車のマナーや危険性について指導を受けた。 - 携帯やPCの使用法や書き込みに関する啓発は教務、生指、担任団が協力して行い、教職員研修も実施した。	遅刻数は前年比10%減にとどまった。目標の30%にはとどかなかったが今後も減少させたい。
取組 み③	ICTを活用 した校務の 効率化	【校務処理システムの活用】 - 情報委員会主催の表計算ソフト等の研修会を実施。だが参加者が固定していてその数も少ない。 - 職員室が極端に小さいのでパソコンが使いにくい。プロジェクターをすぐに使用できる教室整備の必要性が急務である。	授業評価で生徒の活用満足度は90%を上回った。
取組 み④	地域との連 携強化	【地域の小・中学校、支援学校との連携】 - 八尾支援学校小学部中学部の児童生徒に英語教員2名とAETによる出前授業を3回実施した。相手校だけでなく本校英語教員の勉強になった。 - 家庭科の選択授業で幼稚園・保育所との交流も始めた。本校生徒にとっても進路の指針になるものであった。 - 八尾市社会福祉部から和太鼓部が表彰された。八尾市フラワーファクトリー事業に協力して、本校生徒会、科学部が苗を育て、それを山本地区自治振興委員会の方が地域公園に移し花を咲かせている。近隣幼稚園や地元夏祭りを初めいくつかのイベント、老人ホーム回りに、アコースティックギター部、吹奏楽部、ダンス部、運動部も地域中学校との合同練習や中学校大会の補助員などにも積極的に出かけている。 - クラブ加入率は全体で6割で、運動部文化部が半分ずつであった。吹奏楽、和太鼓、ダンスなど女子の文化部加入者が多く、軽音楽、ダンスという時代を反映するクラブの加入者が増えている。 - 中学校訪問を実施し出前授業やクラブ交流、進路説明会出席の意欲をアピールした。新たに4校から進学説明会講師の依頼がきた。 - 通学路清掃を生徒保健委員会と運動部生徒で2回実施。学校近隣清掃は、生徒会や野球部で週に1度の割で実施した。	- 支援学校出前授業を3回実施。交流と出前授業を若手教員に任せ、他校種の経験を積んでもらいたい。 - 今後も八尾市との連携を強めていく。 - 運動部加入率の目標を全体の60%としていたが、半分の30%であった。運動部加入率を6割にしたい。